

令和 5 年度 評価計画及び自己評価

(計画)・中間・最終)

和庄中学校区 校番10 学校名 和庄中学校

a 学校教育目標	夢を持ち 自ら学ぶ	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 確かな力と社会性を身に付け、地域を愛し、未来を創造しようとする児童・生徒の育成 〈ビジョン〉(将来の学校像) 9年間を通して、夢を持ち自ら学ぶ児童・生徒を育成することにより、保護者・地域から信頼される学校
----------	-----------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	<p>現状(成果○と課題●)</p> <p>○小中一貫教育の推進により、中学校区の共通経営理念に基づいた研究・教育活動が行われている。</p> <p>○「和庄中学校区授業モデル」に基づいた教科等の本質に迫る「考える授業」づくりに向け、中学校区で授業改善を進めることができている。</p> <p>○和庄中学校区「自主的・主体的な行動ができる児童・生徒を育てるカリキュラムマップ」を作成し、課題発見・解決学習に取り組んでいる。(防災教育)</p> <p>●学力の個人差・学年差が大きい。(基礎基本、活用力の定着に課題がある。)</p> <p>●目的や場面に応じて自分の考えを表現することが難しい。</p> <p>●自主的・主体的に行動できる児童・生徒が少ない。(「自立」)</p> <p>(今年度の重点)</p> <p>①育成すべき資質・能力の重点を「主体性・積極性」とし、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進。(子供の問いを生かした「考える授業づくり」)・・・ICTの効果的活用・思考ツールの活用・個別最適な学び</p> <p>②和庄中学校区スピリットに基づく児童・生徒の育成を目指し、9年間を見通した組織的な生徒指導を行う。</p> <p>③防災教育の充実のために、地域の特色を生かしたカリキュラムマップの実践を行う。(家庭を巻き込んだ防災教育)</p> <p>④健康増進・体力の向上に向け、家庭連携による基本的生活習慣の定着を図る。(早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロール)(小学校)</p>
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性
-------------	---------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成度	j 達成度	k 評価	i 達成度	j 達成度	k 評価
★★ 確かな学力	学力の向上	分かる授業を創る	ICTを積極的に活用し、ユニバーサルデザインの充実を図る	「授業はよく分かる」の設問に「よく当てはまる」と答える生徒の割合	60%	67%	112%	A			
				「全国学力・学習状況調査」全国平均との差	+2 pt	国 4.2 数 0 英 -2.6	103% 96% 90%	A B B			
★★ 豊かな心	和庄中学校区スピリットに基づく児童(生徒)の育成	礼儀正しく節度を守る生徒を育てる	様々な教育相談活動を駆使して、生徒の実態を把握し、生徒の発達を支援する。	「粘り強くやり抜くことができる」の設問に「よく当てはまる」と答える生徒の割合	60%	42%	70%	C			
				「学校に行くのは楽しい」の設問に「よく当てはまる」と答える生徒の割合	50%	55%	110%	A			
★ 健やかな体	健康促進・体力の向上	メディアコントロールを推進する	メディアコントロールについて、学期ごとに目標を立て、振り返りをさせ、家庭と連携を図る。	「メディア等の使用時間を決め、計画的に使用している」の設問に「よく当てはまる」と答える生徒の割合	50%	27%	54%	D			
				体力を向上させる	体育の授業や部活動等で、全体の体力アップを考え、これまでの準備運動に加え、持久力を高めるトレーニングや投球動作を取り入れた運動を継続して取り組む	新体力テストにおける全国平均を上回る生徒の割合	50m走 60% ハンドボール投げ 45% 持久走 30%	61% 47% 40%	102% 104% 133%	A A A	
働き方改革	教職員の主体性・積極性が発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保	各階に学年部屋を設ける デイリーノートの提出を促し、生徒との繋がりを強くする	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%	47%	59%	D			
				長時間勤務の削減	仕事の効率を図り、日々のスケジュール管理を行う	時間外勤務が月45時間(年間360時間)までの教職員の割合	100%	70%	70%	C	

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60